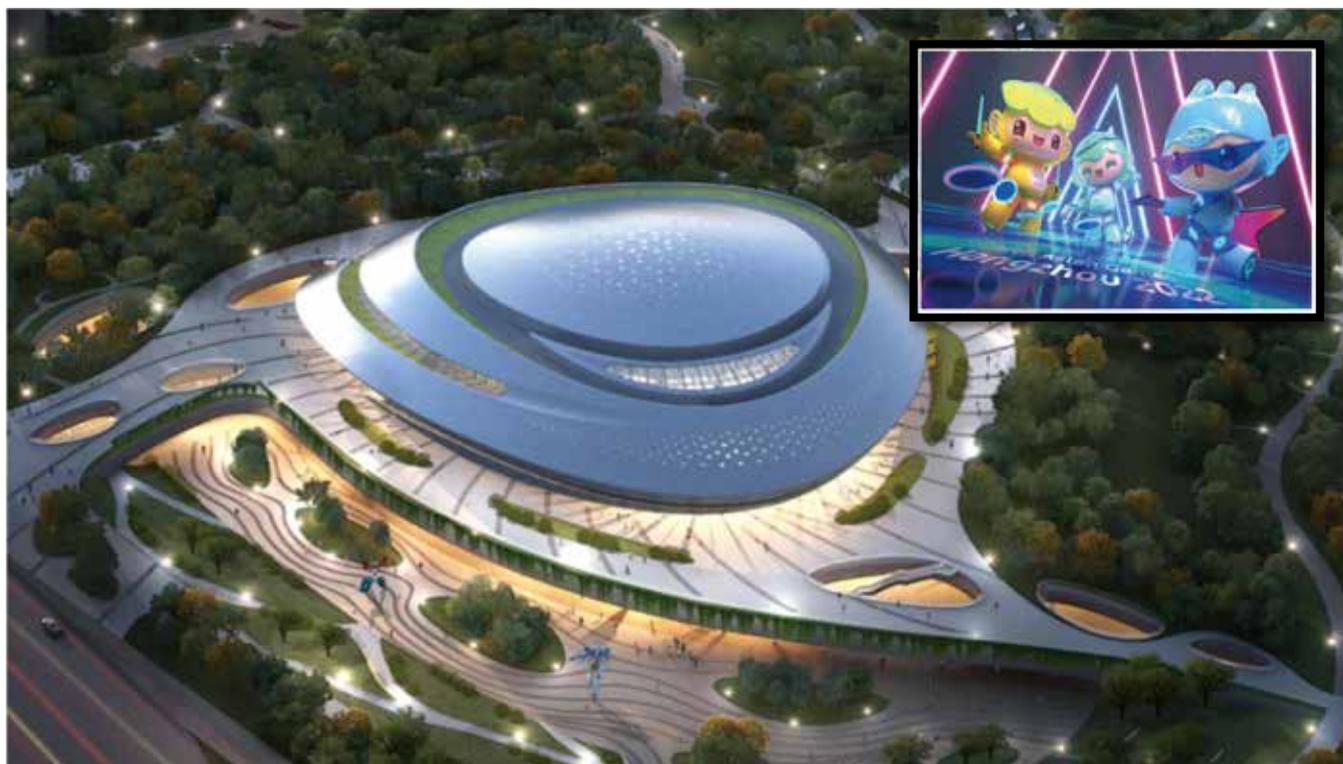


静岡県日中友好協議会

# NEWS LETTER

No.133  
2023.12



杭州2022年第19届亚运会  
The 19th Asian Games Hangzhou 2022

## e スポーツの殿堂・杭州電競センター

今回のアジア競技大会から新たに加わった種目の一つに『e スポーツ』があります。e スポーツが行われた競技会場は杭州市拱墅区数字経済産業区内にある「杭州電競センター」です。総面積8万㎡、約5000席を有します。星雲の渦巻きのような近未来を感じるデザイン、「宇宙戦艦」の愛称で若者に親しまれています。建物は6つの総括的システムに、63の下部システムを装備し、全面5GネットワークやLED照明の自動制御、顔認証、VR・AR・APPの相互ネットワーク等最新技術が装備され、eスポーツという新しい競技が楽しめるようになっています。

特集

静岡県・浙江省経済交流促進機構第32回全体会議  
東アジア工芸展開催・船上で「浙江と静岡の文化交流会」開催  
静岡県海外技術研修員(中国研修生)受入事業再開

- ◎浙江省を疾走する高鉄の今
- ◎駐在生活から見える「季節の色“カラー”」 静岡県上海事務所長
- ◎花を巡る旅情 <<百合(ゆり)>>
- ◎三国志の英雄達 ゆかりの地・孫策と会稽之戦

## 静岡県・浙江省経済交流促進機構第32回全体会議 4年ぶり、双方が静岡に会して開催



11月30日午後、県省友好提携の1993年に共同で設立し、今年で30周年となる静岡県・浙江省経済交流促進機構の第32回全体会議が静岡市内のホテルで行われました。今回の全体会議は4年ぶりに開催され、実際に互いの表情を確認できる対面方式で行われ、事業報告・事業計画等が審議され承認されました。また、浙江省から来静した一行は、本県滞在中に県内の企業・組織、研究所や介護施設を視察、静岡の産業・技術を身近に視察し、本県の産業状況に対する理解を深めていただきました。

### 全体会議：増井浩二静岡県委員会主席代表の挨拶要旨



本県と浙江省とは、これまで常に新しい交流を考え作り上げ、それが成果として繋がっている。この促進機構もその一つであり、地方間交流において、このような交流体制を構築しているところはほとんどない。

今、日本では、アフターコロナの時代の中で、様々な問題がこれまで以上にクローズアップされている。1つは人口の高齢化と人口減少による人手不足がより深刻化している。昨年、県省友好提携40周年を記念して意向書を交わした高齢者福祉介護の人材においては、介護施設でどこも、常にその問題の解決に頭を悩ましている。もう1つは環境問題。世界各地で異常気象が続いているが、気候変動による環境問題、地球の汚染やゴミに関する環境問題、生態系に関する環境問題等、全ての面において、1日でも早い対応が求められている。この2つの分野について、両県省間で今までも積極的に取り組んできているが、より成果のある実質的な交流ができるよう期待したい。

また、9月には富士山静岡空港と上海浦東空港間の直行便が再開した。今はまだ気軽に訪問できる状況にはないが、来年は、以前のように、相互の人事往来ができる状況になってくると思うので、ぜひ、静岡と杭州、寧波等の直行便就航便を再開し、多くの方が訪問できるよう、私たちも働きかけしていきたい。

浙江省は、経済的にも目覚ましい発展を遂げ、その技術力や研究開発力、またその成果においては、すでに日本を超えるものもあり、本県側でも学ぶべきものが多い。

今だからこそ、共同発展の道を模索し、両県省は真のパートナーとして、相互信頼・互恵平等の交流を実際の経済活動に活かしていけるチャンスだと思う。今後のより一層の交流推進のため、本日の会議を実りある会議にしていきたい。

## 東アジア工芸展、匠宿で開催

静岡市の駿府工房匠宿の中にある匠宿伝統工芸館で11月3日から12月3日にわたって「東アジア工芸展」が開催されました。



日本・中国・韓国3か国9名若手芸術家の作品が駿府の工房匠宿を舞台に展示され、併せて匠の技を披露しました。初日には、匠宿内のカフェでオープニングイベントが開かれました。

東アジアは陸路、海路を問わずに交流を重ね続け、お互いに交差し影響しあい、各土地に根つき、「文化」として発展しました。この東アジアの若手芸術家たちが集まり、積み上げた技術の上に独特の価値観を表現し、見る人々を惹きつけました。



## 駿河湾フェリー船上で、文化交流イベント開催

駿河湾フェリー上で、文化交流イベント「浙江と静岡の文化交流会」が開かれました。普段と違った船上で日本と中国の伝統音楽、茶文化を紹介して、双方の文化をPRしました。

11月23日、駿河湾フェリー第3便の往路、清水港発の船上で古箏・琵琶&舞踏・二胡のアンサンブルのほか、それぞれの楽曲が奏でられました。また、復路、土肥港発の船上で日本の茶道と中国の茶芸パフォーマンス鑑賞、日本茶と中国茶の試飲ができ、さらに二胡のソロ演奏を楽しむことができました。当日、乗船した乗船客はこのイベントを通じて、両地の文化に触れる機会となりました。



# 静岡県海外技術研修員（中国研修生）受入事業再開

## 10月に来日、4か月半の研修をスタート

1981年より始まり、毎年継続して実施されてきた静岡県海外技術研修員受入事業（本協議会受託）は、コロナ禍の影響で2020年から中断していましたが、2023年4年ぶりに受入が再開しました。今年度は、女性3人が10月20日、再開した上海―静岡便で来日しました。



### 王蒙娜さん ＊左

研修分野：介護

所属：浙江省民政庁

研修先：静岡県健康福祉部、インフィック株式会社、社会福祉法人駿府葵会、医療法人社団アールアンドオー

### 張雪妍さん ＊中央

研修分野：経済

所属：商務部国際貿易経済合作研究院

研修先：一般財団法人静岡経済研究所、静岡県立大学グローバル地域センター

### 朱一苗さん ＊右

研修分野：医療

所属：浙江省人民医院

研修先：静岡県立総合病院

来日早々、10月21日には、静岡県地震防災センターを見学し、静岡県の災害、主に地震やそれに伴う津波、活火山である富士山の噴火に対して身を守る方法について説明を受けました。3人は地震を再現する設備で地震の揺れを体験、地震の恐ろしさと、万一のために家に防災用品を備える重要性を学びました。今日にでも家にペットボトルの水を準備しておく、と話しました。



10月24日には、警察による安全講習を受けました。自転車の交通ルールや走行方法、「止まれ」の標識の重要性を学びました。自国との交通ルールの違いを自覚し、安全第一で走行することが大切です。また、日本で見られる



犯罪、置き引きや痴漢、外国人を狙った詐欺電話等についての講習を受けました。

現在、3人は来年2月29日までの4か月半にわたって県内で各自専門分野についての研修を行っています。

# 浙江省を疾走する『高鉄』の今



浙江省は、2025 年までに省都・杭州市と省内各市を結ぶ交通網を整備し、省内どこへ行くにも1時間で行ける**一時間交通圏**を実現することを目標としています。省内に高速鉄道網 12 路線を整備、一層の経済発展を目指します。今回は前回紹介の路線とは別の3路線を紹介します。

## ⑦金温鉄路

区間 金華東孝駅—温州南駅  
 全長 188km（うち浙江省内 188km）  
 開通 2015年12月20日



金華から麗水、温州をまたぎ、浙江省中東部の主要都市を含む8駅を繋ぐ重要な交通動脈となっています。山間区を縫って走る高速鉄道で、この区間には1000m級の浙南山地を通る沢雅トンネルは12,030m、地表からの深さは最大660m、華東地方最長のトンネルです。

## ⑧衢九鉄路

区間 衢州駅—九江駅  
 全長 334km（うち省内88km）  
 開通 2017年12月28日

浙江省から江西省まで16駅で繋ぐ鉄路で、景德鎮や鄱陽湖といった著名な景勝地を通過しています。更に衢州から杭州や温州に鉄道を延線する計画があり、今後の発展が期待されています。



## ⑨杭黄鉄路

区間 杭州東駅—黄山北駅  
 全長 287km（うち浙江省内208km）  
 開通 2018年12月25日

杭州市・富春江・千島湖・黄山と、当地の名城・名江・名湖・名山を繋げる高速鉄道路線です。浙江省西部に高速鉄道が通ってなかった歴史に終止符を打ちました。全長12,013mの天目山トンネルや、杭州市蕭山区を通る伝芳特大橋など高い技術が必要な工程も多く、また環境保護の観点からも評価され、2020-2021年国家優質工程賞を受賞しました。



## 駐在生活から見える「季節の色“カラー”」

皆さんこんにちは。静岡県上海事務所長の石川と申します。  
季節の色をテーマに「中国の今」をお届けします。



静岡国際経済上海事務所  
石川祐介所長

### 上海で体験する「ネオンカラー」

「今年はいつまでも暖かいね」と挨拶を交わしていた上海では、11月下旬でもコートもマフラーも必要ない異常ともいえる気候でしたが、12月に入って、ようやく冬らしくなってきました。今回は、秋冬の夜長に国内の消費を活性化させようと中国各地で取り組む「ナイトタイムエコノミー(夜間経済)」を紹介します。

中国では、仕事が終わってからの夕食やショッピングで経済を活性化させようと、地方政府が夜の店舗営業を推奨しています。先日、中国の民間企業の調べでナイトタイムエコノミーが進んでいる中国の地域が発表されました。皆さんどこを思い浮かべますか？(答えはページ最後をご覧ください。)



暖房が強く効いたオフィスビルから冷たい夜の街に出ると、白、紫、赤、青、緑と色鮮やかなLEDが高層ビルを彩っています。日本では年末にかけてクリスマスの電飾が街中を明るく照らしますが、上海では、無数のLEDで彩られた高層ビル自体が芸術作品のようです。上海中心部から地下鉄に

乗って30分ほどで到着する泗涇(スージン)夜市では、羊肉の串焼きや、牡蠣オムレツなど、中国各地の料理を楽しむことができ、週末は多くの地元客で賑わっています。

さて、中国から日本へのインバウンド旅行客数は、未だ回復途上ですが、個人で日本を訪れる中国人旅行者は、一様に「日本の商店が早く閉まるのでびっくりした」と言います。中国ではデパートの閉店は22時が一般的で、食後にショッピングを楽しめます。日本では19~20時頃に閉店するため、日中の観光時間を削って買い物をしたり、閉店間際にデパートに駆け込んだりした後、夜遅くまで営業している居酒屋で食事を済ませるなど、「ショッピングの時間を確保するためには、他の行動を制限する必要があるのは残念」と話します。人材不足が顕著となる日本でも、今後のインバウンド消費を重視するのであれば、こうしたサービスの拡充も大切な要素といえそうです。



なお、中国の民間企業の調査によるナイトタイムエコノミーの充実度は、1位重慶市、2位上海市、3位長沙市(湖南省)、4位北京市、5位深圳市(広東省)でした。いずれも地域住民の生活満足度が高い大都会です。出張で各地を訪れる機会がありましたら、是非ナイトライフも楽しんでみてください。

# 花を巡る旅情

## 湖州の百合(ゆり)



香高く大きな花を咲かせる百合は、純潔や威厳を象徴し、花束などにも使われる花ですが、湖州市の花「百合」は目や香を楽しませるものではなく、舌を楽しませるものとして大変人気があります。

湖州市の太湖一帯は土壌も水はけも良く、そこに生息する「太湖百合」は、夏季に橙紅色をして黒紫色の斑点のある花を咲かせます。花弁はくるりと巻が入っていて可愛らしく、百合の良い香りがします。

百合は宿根多年草の植物で、鱗状の地下茎が 100 片以上重なり合って大きな鱗茎を形成します。よって「百合」と呼ばれるようになった、とも言われます。気候や土壌の条件がそろえば鱗茎は豊満になり、美味しい野菜にもなります。立秋後に収穫される百合根は湖州市の特産品として有名です。白玉のように身厚で甘く淡白な中にほろ苦さのある太湖百合は古くから栽培されていることが『湖州府誌』に記載され、すでに 400 年以上の歴史があります。太湖百合は「百合之王」と称えられ、1980 年代になると上海や蘇州に、或いは香港やマレーシア、シンガポールにまで輸出されるようになりました。

太湖百合は野菜の中でも蛋白質や糖分、ミネラル、ビタミンが豊富で、その栄養価の高さから「太湖人参」とも呼ばれています。生食だけでなく、乾燥させて粉にし、スイーツの材料にするなど用途も幅広く、さらに薬としても重宝されています。かの唐代詩人王維も「冥搜到百合、真使当重肉、果堪止淚痕、欲縱望江目」と詠んだように、涙嚢炎の治療のため百合根と豚肉を煮たものを食しています。

### 百合根の効用



#### 涙嚢炎・流涙症：

百合根 60 g、豚肉 90 g を煮て  
2 回に分けて服用する。

#### 気管支炎：

百合根 10 g、梨 1 個、砂糖 15 g を  
混ぜて 2 時間蒸す。冷やしてから  
服用する。

#### 不眠症：

生百合根 50 g、蜂蜜 1-2 匙を混ぜ  
て蒸す。寝る前に服用する。  
百合根と蜂蜜はその他咳止め、神  
経衰弱、更年期障害にも効果あり

# 三国志の英雄達 孫策と会稽之戦（紹興）

## ゆかりの地



孫策（175年－200年）、字は伯符、現在の浙江省杭州市富陽区出身。孫権の兄。若くして父の孫堅を亡くし、19歳で袁術の将軍となり、袁術軍に組み込まれていた父の兵1000人を引き継ぎます。戦いに強く、その後袁術の元からも独立し、短期間で揚州に一大勢力を築きます。しかし、その過程で多くの群雄を殺害したことから恨みを買ひ、狙撃された際に負った傷が原因で早世。

呉を治めたのは孫権ですが、その基礎を築いた兄の孫策は数々の戦いをこなし、勢力範囲を広げました。そのうち江東の基礎固めとなった戦いが会稽の戦い、と言われています。

建安元年（196年）、孫策は江東各地を攻め続け、呉郡人嚴白虎など1万人余り、駐屯してそれぞれの地盤を厳守しました。呉景らはまず嚴白虎などを撃破してから会稽に行くべきと主張していましたが、孫策は「嚴白虎などの群盗は、心に大志がなく、それによって捕まえることができる」と述べ、兵を率いて浙江を渡り、会稽に迫りました。

会稽功曹・虞翻は太守・王朗に孫策の矛先を暫く避けるよう勧めましたが、王朗は聞かず、固陵（銭塘江南岸の蕭山）において、ここで孫策の進攻を阻止することにしました。孫策は何度もここを攻撃しましたが、いずれも功を奏すことないことから、孫策の叔父孫静から、「声を東にして西を撃つ」ことの策で、查流から入兵し、不意を突いて、不用意を攻めることを提案しました。その作戦は、夜にあちこちで松明に火をつけ、正面の敵を惑わし、牽制しながら、兵馬を分けてそっと查流から出撃しました。王朗は意外なことに驚き、周昕に兵を率いて倉卒に迎えて対峙しましたが、孫策は周昕を斬殺し、突入に成功しました。王朗は撤退を余儀なくされ、虞翻を連れて船で東冶（現在の福建省福州市）に逃げ、孫策派の賀斉が追撃し、王朗はついに降伏したので、会稽は平定されました。会稽の戦いは、孫策が曹操との争いで後顧の憂いをしないために、固陵で王朗を襲った戦でした。孫策が王朗を滅ぼしたことにより、中原に進攻する重要な戦略ステップとなり、以来、江南地方の懸念を解消して、力を集中して曹操と対峙することになりました。戦いのエネルギーは負のエネルギーをも呼び込むのかもしれませんが。



固陵古跡（銭塘江南岸の蕭山）

発行所：静岡県日中友好協議会  
発行人：増井浩二

静岡市葵区追手町44-1（静岡県産業経済会館1F）  
TEL (054) 255-8111